

月 日() 5年 組 名前

今日のめあて

Blank space for writing the purpose of the day.

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？

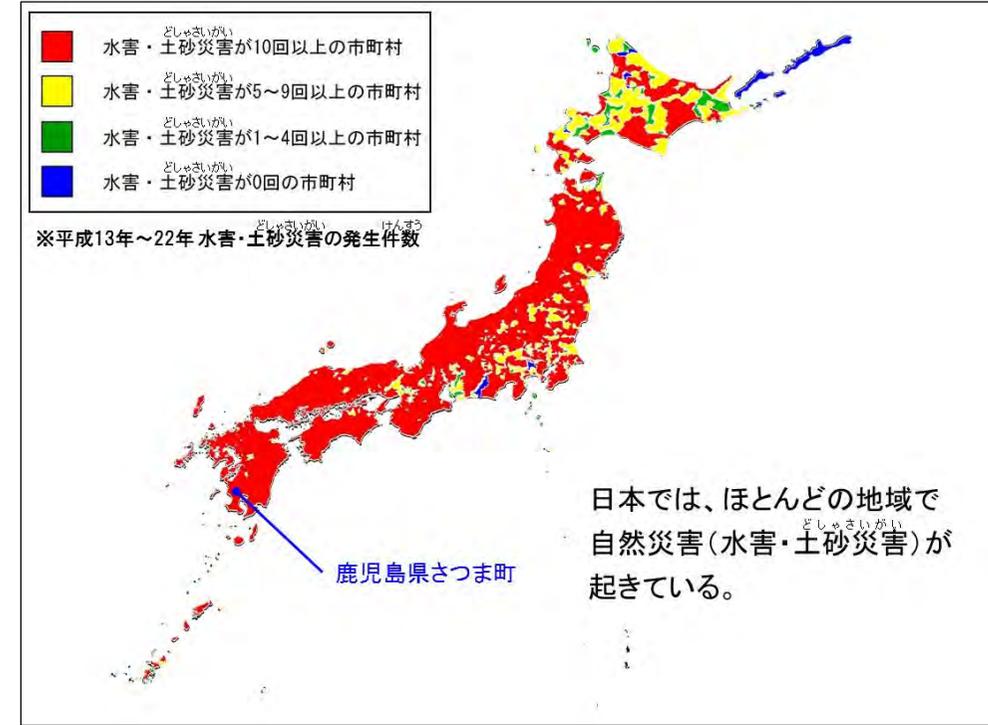
ひとりで考えてみよう	グループで話し合ってみよう
Blank space for individual reflection.	Blank space for group discussion.

今日のまとめ

Blank space for writing the summary of the day.

自然災害が毎年発生しているのに、被害が少ないのはなぜだろう？

■水害・土砂災害の発生回数



■平成26年8月の大雨の影響で洪水や土砂災害が各地で発生しました



平成26年8月に京都府で発生した洪水

京都府以外でも、平成26年は、高知県(台風11号・12号)や徳島県(台風12号)、静岡県(台風18号)などで洪水が発生しています。



平成26年8月に広島県で発生した土砂災害

広島県以外でも、平成26年は、長野県(台風8号)や山口県(台風12号)などで土砂災害が発生しています。

月 日() 5年 組 名前

今日のめあて

Blank space for writing the day's goal.

■ 右側の取り組みを、似ているものどうしにわけてみよう！

取り組み	「似ている取り組み」の名前
【ひなん場所や危険か所を事前に知らせる】 ための取り組み	
【防災情報を早く正確に伝える】 ための取り組み	
【災害を防ぐ】 ための取り組み	

■ さつま町内で進められている災害を防ぐさまざまな取り組み

① 土砂災害情報

大雨が降って土砂災害が起こるおそれがあるときに、避難かん告や避難指示などの情報を住民に知らせるため、さつま町が防災行政無線や広報車などから呼びかけます。

② がけくずれ工事

くずれた土砂の一部を取り除き、がけの形を整えたり、セメントで表面を固めたりする工事を、鹿児島県やさつま町が行っています。

③ かん視カメラ

災害を防ぐために、国土交通省が川内川にかん視カメラを設置して、つねに川の様子を観察し、災害が起こりそうなどときには、さつま町に知らせます。

④ 防災無線

住民へ防災情報を知らせるための無線通信システムです。さつま町が各家庭に設置しています。

⑤ 堤防

大雨が降っても川があふれないようにするため、川の左右に堤防を作る工事を国土交通省が行っています。

⑥ こう水ハザードマップ

しん水ひ害が起こりそうな場所や避難場所、避難するための道などが分かるように、さつま町が配っています。

⑦ 分水路

川の水が増えたときに、水が流れる道を増やし、川の水をあふれにくくする工事を国土交通省が行っています。

⑧ ひ難場所をしめす看板

こう水のときにすみやかに避難できるように、日頃から避難場所がわかるような看板をさつま町が設置しています。

⑨ 土砂災害ハザードマップ

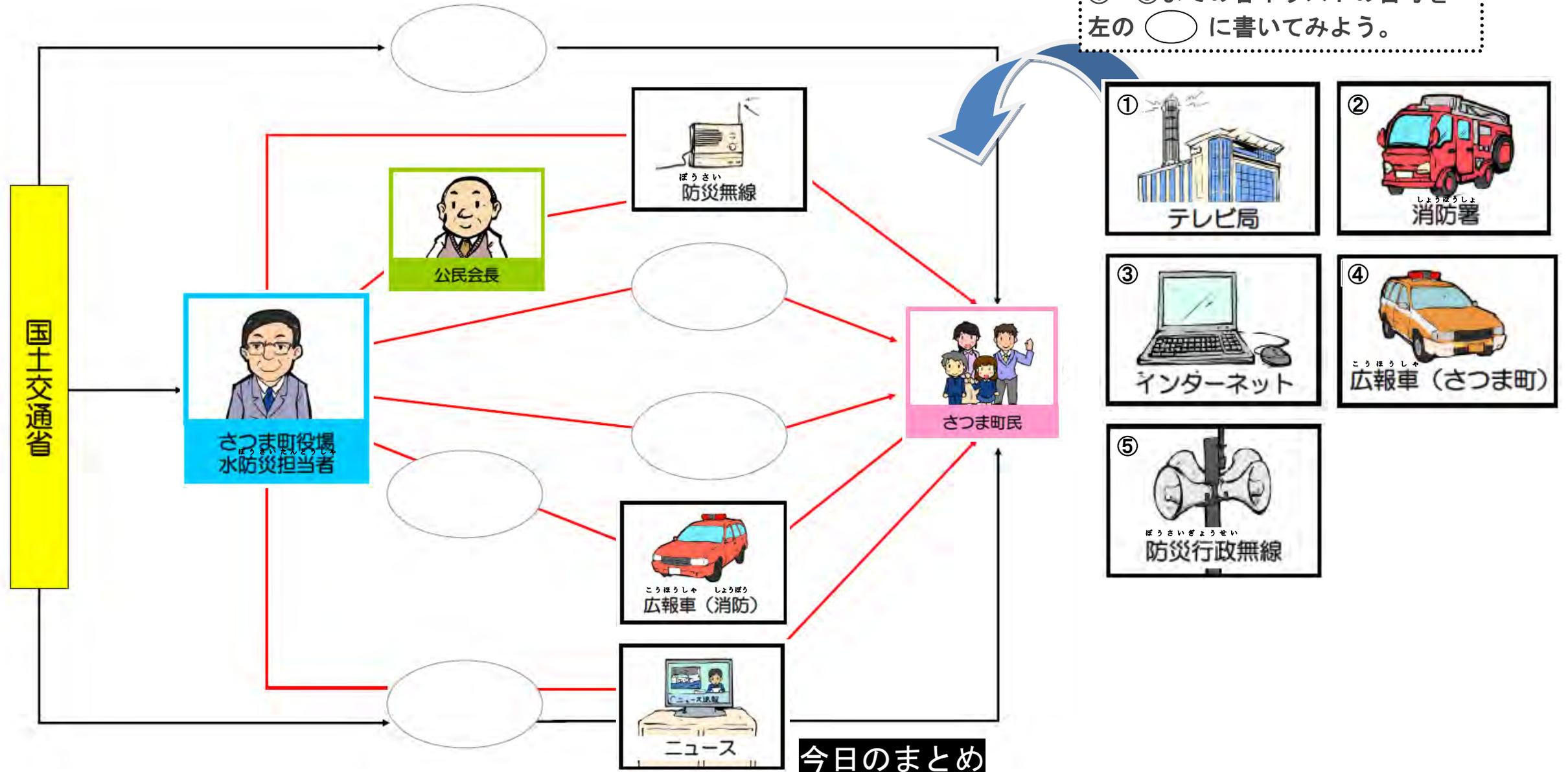
長雨や集中豪雨の時に、がけくずれや地すべりなどに注意・警戒すべき危険箇所がわかるように、さつま町が配っています。

⑩ まるごとまちごとハザードマップ

「過去の大きな水害時にどこまで水に浸かったか」などの情報をわかりやすく「まちなか」に表示する取り組みを国土交通省が進めています。

② 災害が起こりそうなときに、どんな風に情報が伝えられてくるのか考えてみよう

どのイラストが、どこに入ったら情報が伝わるかな？
①～⑤までの各イラストの番号を左の○に書いてみよう。



今日のまとめ

Blank box for summarizing the day's learning.

月 日() 5年 組 名前

今日のめあて

Blank box for today's goal.

① 釜石市の子どもたちが逃げることができたのはなぜだろう？

Blank box for answer to question 1.

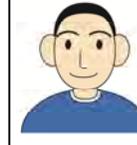
② さつま町で多くの人の救助が必要となったのはなぜだろう？

Blank box for answer to question 2.

今日のまとめ

自分たちでできることやこれから気をつけたいと思うことを書いてみよう！

平成23年3月11日の東日本大震災のとき、岩手県の釜石市では、約3千人の小中学生が素早い避難を行い、大津波を生きぬきました。



自分の身は自分で守るように言われてきた。自分一人でも生き延びろと言われていたので、お父さん・お母さんを待つのではなく、一人で逃げた。



何回も避難訓練で練習してきた。「釜石の“奇跡”」ではない。

平成18年7月の水害のとき、さつま町では、939戸の家が浸水し、237名の方が救助されました。



平成18年7月の豪雨のときに水害でひなんした人の話

地域の方



あの日は、私は虎居で仕事でした。家もひなん指示がでていと電話があり急いで帰りました。でも、川の水位を見てあまり危機感がなかったのをおぼえています。

地域の方



家の前の田んぼは、大雨の時にときどき浸水することがあったので、あまり心配していなかったのですが、こんなのは初めてです。公民会長さんから「危険ですよ。」と声をかけてもらって、にげようとしたときには、既に川内川支流の川の水があふれていて、家の前は川のように水が流れていました。何も持ち出せず、必死でにげたのをおぼえています。

地域の方



玄関の前を水が流れ出し、近くで働く主人に電話をして帰ってきてもらい、一緒ににげました。ほんのわずかのあいだに、家の中の家具はぶかぶかうきはじめていました。主人とかばん一つ、車も使えず、きのみきのまま近くの高台にひなんしました。友人やボランティアの方々など多くの方に助けられました。特に、鶴田中学校野球部の子どもさんが床下で懸命に泥だし作業をやる姿に胸がいっぱいになり被災の心が癒されました。みなさんに助けられたという思いが強いですね。

平成18年7月の豪雨のときに水害で救助した人の話

さつま町消防団西部方面隊長



こんな水位は初めてですよ。そのせいか、何度もひなんをよびかけてもおうしてもらえませんでした。また、体が不自由で動けない高齢者を救助したときに、日頃の見まわり活動が必要と感じました。

さつま町消防団虎居分団団員



出動要請があって現地につくと、民家のすぐ近くに水がせまってきます。急いでひなんするように強くよびかけました。あわてて高齢者を背負ってひなん所まで運び、おりかえして他の住民の救助にかけつけたときは、腰まで浸水していたためすぐには近づけませんでした。仲間のひとは急流に流され命の危険にさらされました。携帯電話も水没したため連絡がとれず、どこに住民がとりに残されているのか把握するのに苦労しました。

今日のめあて

① 地図から自分の家をさがして、自宅のまわりや通学路で気をつけないといけない災害やひなん所をさがしてみよう。

- 自分の家を見つけたら、そこに◎印を書いてみよう。
- 自宅のまわりや通学路では、どんな災害に気をつけることが大切だろう？
- 自宅から一番近いひなん所を探して、名前を書いてみよう。

■ 自分の家をさがして地図(別紙)に書き込んでみよう！



さつま町 防災マップ



どしゃまいがい 土砂災害ハザードマップ

② 災害が起きそうな時には、どんな情報に注意して、何を持って行く
とよいだろう？ これまでの授業を思い出して書いてみよう。

さいがい じょうほう 災害の情報は何から集めるとよいだろう？	ひなんの時に持っていくものとして、 何を準備しておけばよいだろう？
ひとりで考えてみよう	ひとりで考えてみよう
グループで話し合ってみよう	グループで話し合ってみよう

今日のまとめ